

修学から就労への スムーズな移行支援

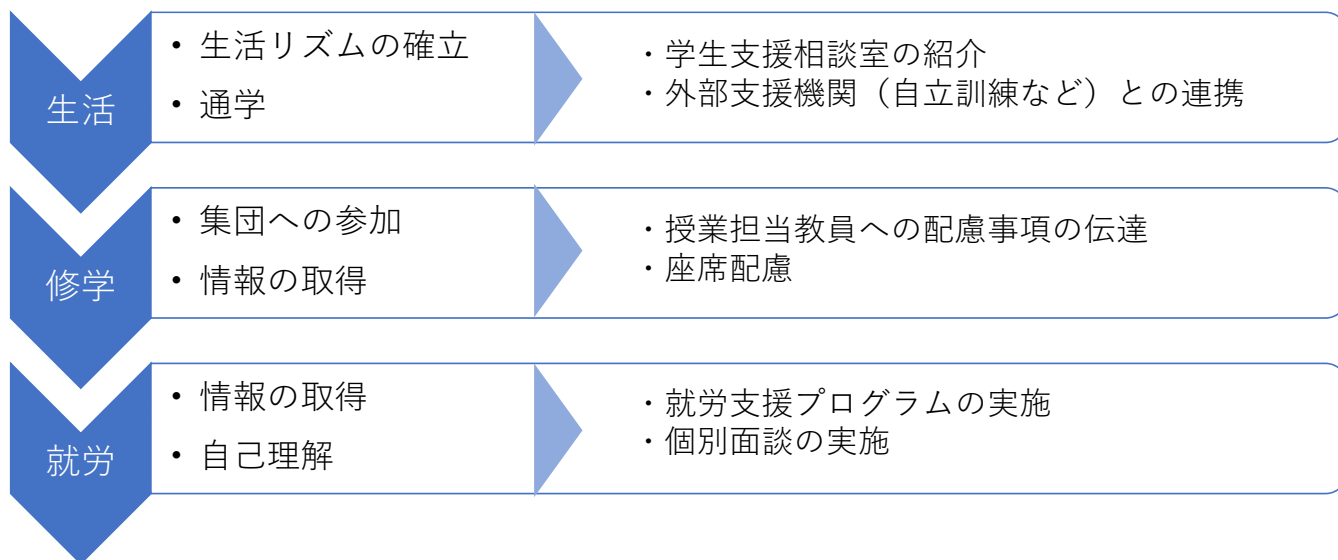
—発達障がいのある学生対象の就労支援プログラムについて—

関西学院大学 学生活動支援機構事務部
総合支援センター キャンパス自立支援室 西川 若菜

全体の流れ

1. はじめに
2. 就労支援プログラム開始までの経緯
3. 発達障がいのある学生対象の就労支援プログラムについて
4. 今後の展望

はじめに（学生が困難を示す事項とその対応例）



3

はじめに

困り感がありつつも支援に繋がらない学生

- 講義、ゼミにおける困難さ(学生本人・教員)
- 関係部局の窓口対応における困難さ

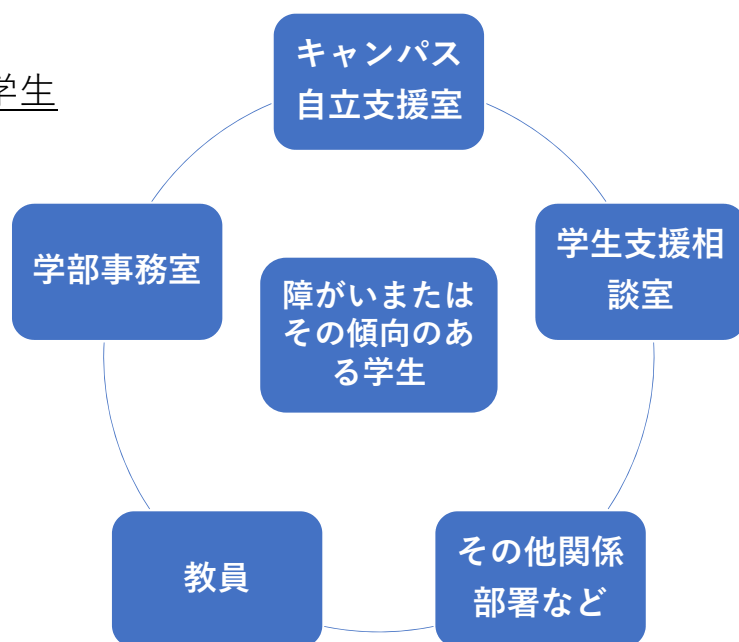


➤ 支援部署に関する情報の周知

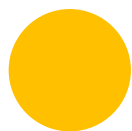
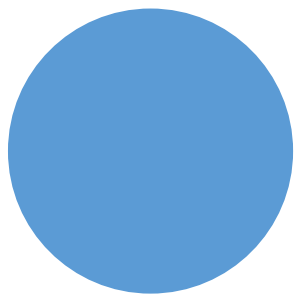
(学生、教員、関係部署に対して)

➤ 関係部署・教員への研修

(障害について、支援部署へのつなぎ方など)



4



就労支援プログラム 開始までの経緯

5

本学の就労支援と課題

—2011年度までの就労支援—

- 就労に関するSSTの実施
- キャリアセンターとの連携、個別面談

課題

1. 発達障がいのある方を積極的に雇用している企業とのつながりや企業情報の乏しさ
2. 進路未決定のまま卒業をする学生の存在
3. 就職後、定着が困難な学生の存在

6

本学の就労支援と課題

—2013年度までの就労支援—

- 外部支援機関等との個別連携
- 就労支援セミナー・特例子会社見学会など就労に関する情報提供

課題

1. それぞれの学生への個別支援となる
2. 個別支援では支援プロセスの蓄積が困難
3. 情報提供のみでは自己理解が進みにくい、就労に結びつきにくい
⇒複数人を対象としたプログラム等、就労支援の体制が必要



(福) すいせい協力のもと、2014年度より **就労支援プログラム** の開始

7

社会福祉法人すいせいとの連携

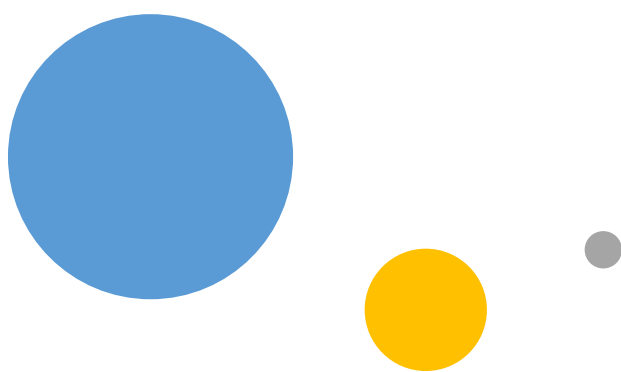
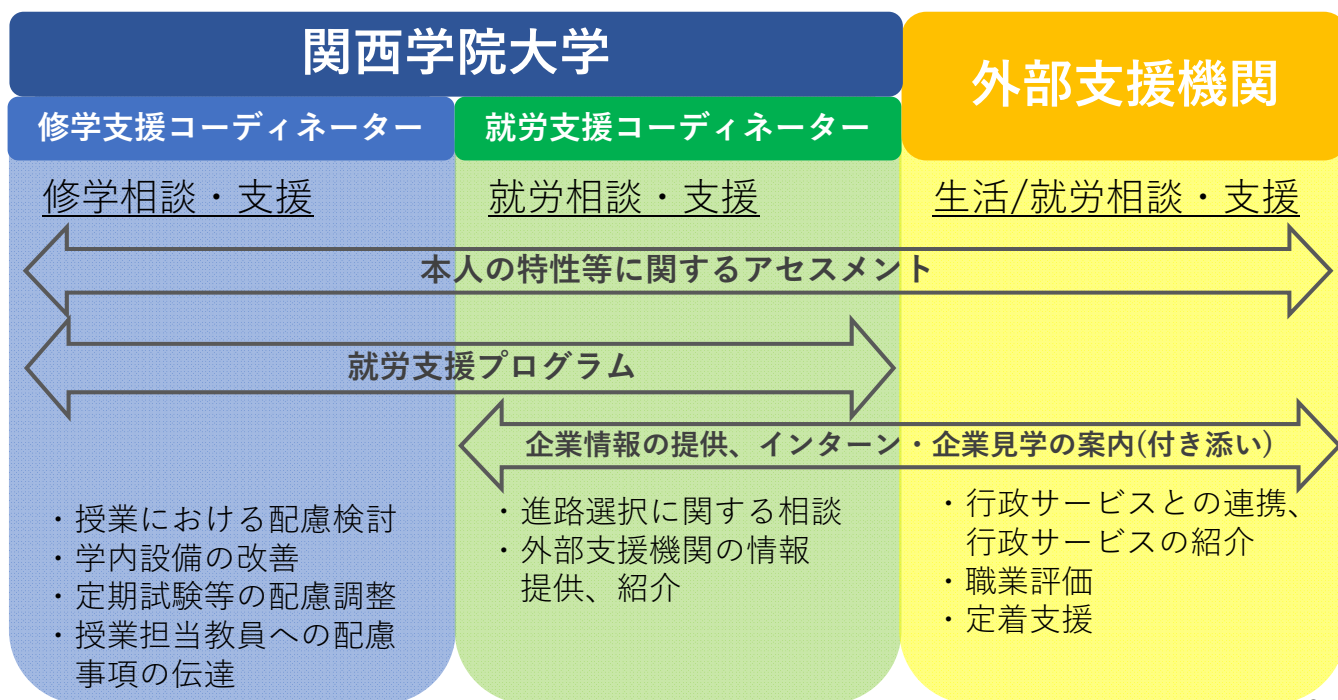
- 2011年度～ それぞれの学生に関する個別連携・相談
 - 2014年度～ キャリア教育支援プログラム
 - 2016年度～ プレキャリア教育支援プログラム
 - 2018年度～ 就労支援コーディネーターが(福)すいせいより派遣
 - 2019年度～ 修学支援の一部を(福)すいせいに委託
- } **就労支援プログラム**

➤ (福)すいせいとの連携を開始した経緯・理由

- 大学単独では障がい者雇用に関する企業情報が乏しかったこと
- 就労イメージが乏しく就職活動が難航する学生の存在
- (福)すいせいは大学生への就労支援を積極的に取り組まれていたこと

8

それぞれの役割について



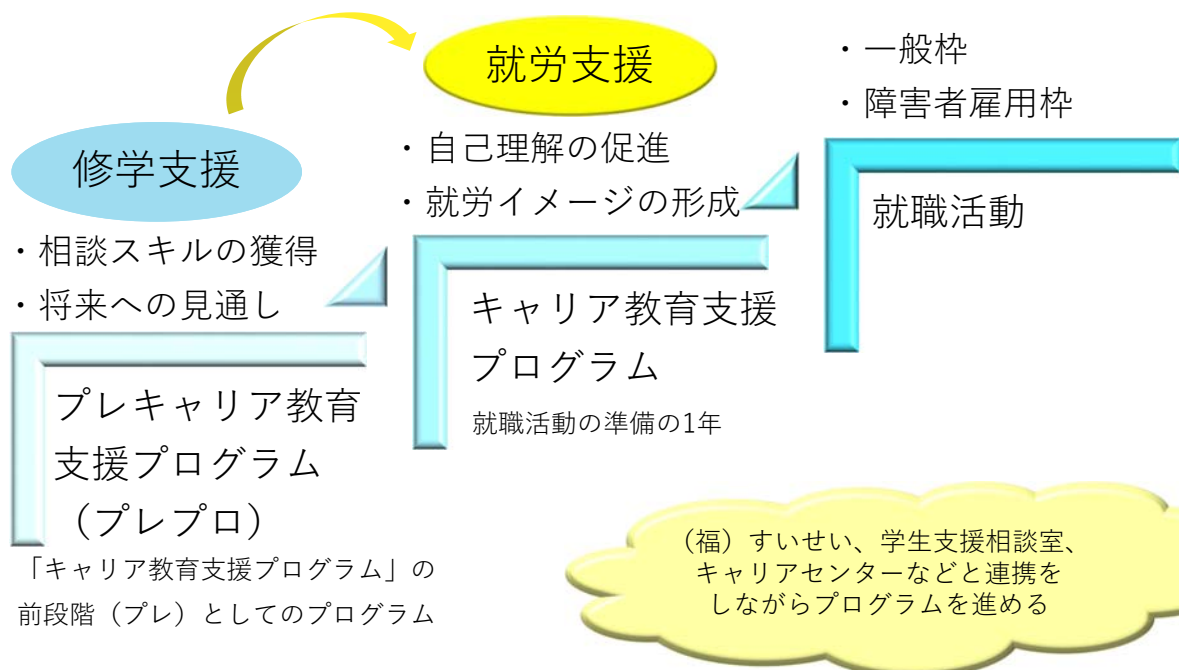
発達障がいのある学生対象の
就労支援プログラムについて

就労支援プログラム

- キャリア教育支援プログラム（2014年度～）
対象：原則3年生で、就職活動を次年度に控えた学生
内容：就労に関するグループワーク、学内実習など
目的：自己理解や就労イメージを深め、自身の特性を十分に把握した上で、適切な進路選択の方向性を見出すこと
- プレキャリア教育支援プログラム（2016年度～）
対象：2年生以上ほかキャリア教育支援プログラム対象外の学生
内容：ライフスキルに関するグループワーク、学内実習など
目的：後の就職活動や卒業後の就職イメージなどを早期に獲得すること
支援室の利用習慣（相談スキル）をつけること

11

就労支援プログラムイメージ図



12

キャリア教育支援プログラム

【2018年度スケジュール】 就労支援コーディネーター主導

4月・5月 初回面談 これまでの経緯や希望進路の聞き取り	6月 図書館実習 就労における得手不得手を明確にすることを目的に実施	7月 図書館実習振り返り 実習を通じて明らかになった特性や配慮について検討	8月 就労支援セミナー 9月 特例子会社見学会	10月 就活座談会一般雇用編 一般雇用枠における働き方をより深く学ぶ	11月 就活座談会障がい者雇用枠編 障がい者雇用枠での働き方をより深く学ぶ	12月 就職座談会就労訓練編 就労訓練についてより深く学ぶ	2月 進路選択面談 今後の方向性や適性について検討
--	--	---	--------------------------------------	--	---	---	-------------------------------------

状況に応じて面談、学外実習

13

キャリア教育支援プログラム

◆ 結果（対象学生3名中3名継続参加）

学生名	結果
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> 参加当時はオープン・クローズどちらの就労を目指すか迷っていたが、新聞社の見学会、銀行1Dayインターンなど学外実習も経験。 ⇒オープン就労に決定。
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> 情報処理や見通し、同時作業の苦手さが見られ、情報過多になりやすい学生。 それぞれのプログラムで丁寧に整理、また実習などを通して自分の得手不得手を客観的に捉えなおすよう促した。 ⇒就労移行支援事業所の利用が決定。選択方法についても情報を提供。
Cさん	<ul style="list-style-type: none"> 参加当時からクローズでの就労を希望。 ⇒まずはクローズでの就労を進めるが、オープンでの就労も検討している。開示する場合はそのタイミングなどについて引き続き面談予定。

14

プレキャリア教育支援プログラム

【2018年度スケジュール】 修学支援コーディネーター主導

支援室や他者との関係性づくり、相談スキルの獲得



15

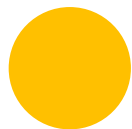
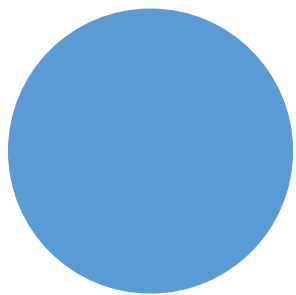
プレキャリア教育支援プログラム

◆ 結果（対象学生14名中4名参加、継続参加は3名）

学生名	結果
Aさん	・学内実習において自己評価より他者評価がとても良かったという結果が、肯定的な体験となったとの報告有。
Bさん	・定期的にプログラムがあることで外出機会や休日の生活リズムの安定に繋がったとの報告有。
Cさん	・修学に関する定期面談などは行っていなかったがプログラムに参加する中で修学上の困りなどについての相談に繋がった。 ・余暇活動が増えたとの報告有。

⇒継続参加の学生全員（3名）がキャリア教育支援プログラムに移行予定

16



今後の展望

17

今後の展望

キャリア教育支援プログラム

- ・ 早期における学外インターンの実施
⇒ より体験に基づいた自己理解・進路選択が出来るよう促す

プレキャリア教育支援プログラム

- ・ 結果のデータ、数値化
- ・ PC操作、メール作成など学内において必要なスキルの習得



卒業後の準備のための、きめ細やかな支援

18

ご清聴ありがとうございました

関西学院大学 総合支援センター
キャンパス自立支援室
コーディネーター(神戸三田キャンパス担当) 西川 若菜

ご意見・ご質問等ございましたら
下記アドレスまでお願いいたします。
jiritsu-ksc@kwansei.ac.jp